

ラストスパート月間積立増資増やそう!

あかるいまち21

No.1110号 2018年2月19日 組織部 TEL082-532-1264

	2月累計	4月～1月
組合員ふやし	40人	1140人
出資金ふやし	281万円	8857万円
純増	▲103万円	1328万円

子育て広場のびのび節分の巻

2月7日(水)、子育て広場「コープのびのびクラブ」では遅ればせながら節分行事を行いました。まずは、鬼退治の準備に備え、新聞紙を丸めた豆を作りました。この時にはまだ平気な顔をしていた子どもたちも、鬼が登場した途端に表情が一変! あちこちから泣き声や悲鳴(?)の嵐となりました。鬼が怖くてついつい豆を投げることを忘れてしまう子も続出(・_・;)「鬼は外～! 福は内～!」なんて叫ぶ余裕もありませんでした。見ている大人たちは子どもたちとは裏腹に微笑ましい気持ちで

ました。最後は優しくなった鬼さんと一緒に記念撮影をして終了しました。いい子にしていないと来年もやってくるかも!? (この日は、学生ボランティアの皆さんも一緒に行事を楽しみました。)



「廿日市の介護をめぐる 講演と介護相談会」開催!

2月10日(土)、4月1日開設予定の「訪問看護ステーションコープはつかいち」開設記念企画「廿日市の介護をめぐる講演と介護相談会」が開催されました。2月3日(土)のあいプラザに引き続いて2回目の開催で、今回は開設予定地の生協ひろしま事務所内(廿日市市大野原)で行われました。参加者は理事・役職員含めて19名でした。

講演内容は1回目と同様、生協ひろしまからは「介護保険と廿日市の介護サービス現状」「生協ひろしまの介護サービスの現状」、当生協からは高橋陽子準備室長(兼訪問看護STコープ五日市所長)より「広島中央保健生協の訪問看護の現状」を具体的な事例を挙げながら報告されました。



終わりのあいさつで藤原秀文理事長は、「ドクターヘリもカッコいい、必要なことではあるが、私たちは、今も昔も、患者やその家族が本当に来てほしいと思ったときに駆け付けて、不安や痛みを取り除いてあげられる在宅医療の重要性を知っている。地域包括ケア時代、在宅医療と介護の連携がより重要性を増す中、この地に当生協の訪問看護STを開設する意義は大変大きい。生協ひろしまの介護サービスと当生協の在宅医療の連携がより一層進んでいくことを期待している」と締めくくられました。

協同組合がよりよい社会を築きます